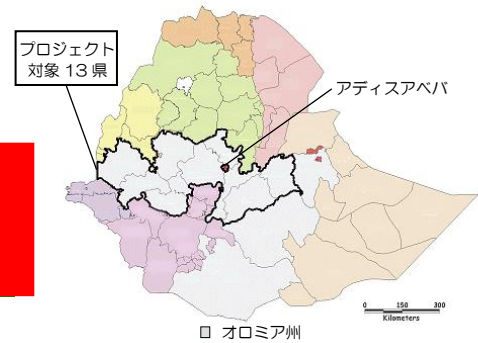




Ho! ManaBUしんぶん

子どもの笑顔に会うために!



女子教育は必要ない?

～ 特別市の女子児童の現状 ～

11月・12月のTOT (Training of Trainers) 研修の中で、「男子児童より女子児童の就学者数が多い」「女子教育は過去の問題」といった意見が特別市教育事務所 (STEO) の行政官から出されました (しんぶん 13号参照)。3号連続でお伝えしてきたプロジェクト独自のモニタリング (しんぶん 15・16・17号) を通し、この真偽も確かめようと、「特別市の女子児童を取り巻く環境・現状」についても聞き取り調査を実施しました。確かに、特別市においては「男女の児童数の格差がない」「女子児童数が男子児童数より多い」という回答が多数を占めていて、その理由・背景として以下のような意見が聞かれました。

啓発活動: 数年前に特別市が中心となり、女兒への教育機会提供のための大掛かりな啓発活動が行われ、女子教育に対する市民の問題意識が高まった。啓発活動は、学校の始業式や終了式などの式典の場を活用。

地域住民の理解の深まり: 啓発活動の結果、早期結婚や誘拐など、女兒から教育の機会を奪う要素や教育を受ける大切さに対する地域住民の理解が深まった。

女子教員の登用: 第1サイクル (小学1年～4年生) の担任教員は女性教員が望ましいとの政策に則り、低学年の担任は可能な限り女性教員を配置している。

管理職への女性の配置を通じたロールモデルの提示: 女性を行政官や学校の監理職ポストに配置し、ロール・モデルとしている。現在、市内8校の政府小学校のうち4名が女性の校長。女性の教頭も多い。

小学校の建設: 「1カバレ (村) に1小学校」を目標とした小学校建設を通じたアクセスの拡充。

家庭訪問: 教員の家庭訪問を通じての女兒就学の奨励。

住民のより一層の理解の深まり: これらの取り組みや環境がさらに地域住民の問題意識を高め、一層女兒の就学を促進させている。

男児の就労: 家計が苦しい場合、労働市場がある特別市では男児が外で仕事をし、夜間クラスに通うケースが多い。男児の就学者数の低下が一層女兒の比率を高くしている (以上アセラ特別市)。

幼稚園数の増加: 幼稚園が増え (現在 38 園)、小学校へのレディネス (準備) ができている女兒が増えた。

へき地・農村部からの流入: 地方に住む親が自分の娘の誘拐などを恐れて、都市部に引っ越してくる、あるいは子どもだけ都市部の親類の下に下宿させるなどして都市部の学校に通わせる結果、都市部の学校の女兒の就学者数が増加している。

人口: 小学校就学レベルでは特別市は女兒の人口の方が多いということと関係しているのではないかと (その証拠に、中等課程になると、中学校がない地方から都市部の中学校に入学する男子生徒が一気に増え、男女比率は逆転する)。 (以上デブラゼート特別市)



「女の子は、学校なんて行かなくていい!」と、先生の助言にも耳を貸さないお父さん。紙芝居のこの場面、「現在もそのままだ!」と言っていた教育行政官・校長・主任も大勢いたのですが……。

「ちゃんと分析しているんだなー」と感心しつつ、「では、特別市では女子教育は必要ないの?」と質問すると……「女性は可能性 (ポテンシャル) を持っている」「女性も責任を負う義務がある」「自分自身に自信を持つ必要がある (日頃の「女性は何もできない」という概念に置かれた環境によって、「自分はできない」という劣等感を持ってしまっている)」「社会を教育することに通じる」 (以上デブラゼート特別市)、「現在の成果 (女兒のアクセス拡充) は、これまでの啓発活動や政府・学校・NGO などの努力によるものであり、ここで啓発活動をやめたら現状に満足し、今後の改善が望めなくなる」「女子教育が問題であることは、地域住民は以前からわかっていたが、その原因についてはあまりよく理解していなかった。研修は住民の女子教育にかかる知識を深めることに役立っている」 (以上アセラ特別市) など「女子教育は必要だ!」という心強い回答を得ることができました。

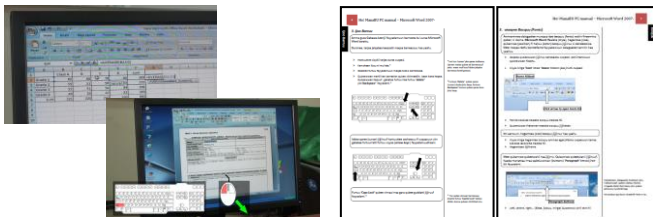
聞き取り調査を基に、オロミア州教育局 (OEB) のジェンダー担当職員とも現状の共有・意見交換を行い、「次の研修教材の作成のアイデア」がポツポツと……。さあ、いよいよスタート! ……かな?

オロモ語初のPCマニュアル ～ パソコン・プリンターの供与機材に向けて ～

プロジェクト開始前のOEBとJICA事務所との協議で、プロジェクト対象のCRC(クラスター・リソース・センター)に「謄写版・タイプライター」を供与することで合意されていたのですが、その後の聞き取り調査結果や今後の展開を考慮し、「パソコン・プリンター・ジェネレーター」を供与することになりました。

特別市のCRC中心校などでは、すでにパソコンを活用している学校も散見されますが、農村部やへき地の学校の中には、「パソコンとプリンターの接続の仕方」「ウイルス駆除のソフトの使い方」そして「ワードやエクセルの使い方」を知らない可能性は高いと思われます。実際、郡教育事務所(WEO)レベルでも、郡の全学校の児童数のデータを、エクセルではなくワードを使って(横に電卓を置いて)作成・処理している場面に、何度も遭遇しているくらいです。

ということで、「ねえ、ガラナさん。パソコンの基礎知識や、ワード・エクセルの使い方とかの簡単なビデオ作れない?」と質問したところ、「これはねえ、下手に作ることを考えないほうがいいと思うよ。結構大変だと思うし。アプリの使い方だけでなく、それぞれ電源のON/OFFからデータの保存方法、最低限のウイルスの知識くらいは盛り込まれてた方がいいだろうし...。」とネガティブな回答。「いやー、JICA事務所もそうしたビデオは必要だって言ってたし、ヨロシク!と無理やり押し付けてしまいました。



ビデオの一場面(左)ならびにマニュアルワード編(右)の一部
マニュアルの右欄にはメモするための空白も!

さて、いざ作成するとなった時のガラナはすごい! 「ビデオだけでなく、基礎編・ワード編・エクセル編のマニュアル3部作も必要だ。そもそも、ビデオ(DVD)を渡しても、それを見るところまでいけないし...。」とごもったもな意見。でも、ビデオはもちろん、マニュアルもオロモ語で作成することは絶対必要条件であり、今月末から開始する配達に間に合うのでしょうか?

昨日も遅くまで残業していたガラナの横顔からは、「やっぱり引き受けなければよかった!」という苦悩の表情が...。でも、プロジェクトスタッフもOEBの職員も「オロモ語のPCマニュアルは初めて!すごい!」と無邪気にはしゃいでいます。

よりよい学校づくりを目指して ～ 知久企画調査員・離任のご挨拶 ～

Dehna Walachihu? エチオピア事務所の知久です。Ho! ManaBU 担当を2008年11月から約1年半勤めました。前半はプロジェクトの1年目ということもあって、主にプロジェクト活動実施の為に環境整備のお手伝いをさせていただきました。

その中でも、Ho! ManaBU 専門家の先輩方とともにPDM改訂作業を行ったことが思い出に残っています。関係者で目標達成の為にどう働きかけをしていくのか、その手立てについて共通理解を得ることができたことは、事務所担当としてプロジェクトをサポートしていくのに大切なステップの一つだったと思います。



昨年12月ワリソ市で開催されたTOT(南西ジョア県対象)に参加した知久企画調査員

現在プロジェクトは実施の中盤に入り、研修活動やモニタリング活動が精力的に行われています。活動は「対・人」ですから、一筋縄でいかないことが多くありますが、そんな苦労話も「しんぶん」では、コメディータッチで書かれており、担当者としても前向きな気持ちで後方支援することができました。

今後は、後任の上野企画調査員にバトンタッチです。上野さんは、ジュニア専門員の先輩でもあり、ラオスでは教育政策アドバイザーを、また、エチオピア赴任前は本部で「みんなの学校」案件の担当もされていました。ですので、今後は学校運営のみならず、さまざまな教育セクターイシューについてより活発な議論がされるのではと期待しています!

エチオピアの教育の質に対する注目は益々高まっていますし、質に対するインプットをどう学習成果につなげるかが大きな課題となってきています。成果の発現の為に、学校運営や学校経営者の役割は大きいことは明らかです。この分野で日本の持っている強み・ノウハウをうまく活かし、よりよい学校づくりを今後も続けていかれることを日本、そして、コロンビアで応援しています! Melkam Edil!

(教育分野企画調査員 知久 奈穂子)